

強風と大雪に伴う被害防止対策について

気象災害対策
令和3年2月15日
中央普及支援センター

2月15日に金沢地方気象台から「高波と強風及び大雪に関する石川県気象情報 第4号」が発表されました。

石川県では、15日から18日頃にかけて非常に強い風が吹き、また、16日から18日頃にかけて強い冬型の気圧配置となり、寒気の程度によっては警報級の大雪となるおそれがあります。

今後、気象台が発表する気象情報や注意報・警報に留意するとともに、次の事項に注意して施設などへの被害防止に努めて下さい。

〔農作業事故防止〕

除雪作業は複数人で行うなど、作業時の安全確保を最優先とし事故防止に努める。

〔パイプハウス〕

- (1)使用していないパイプハウスは、ビニールを必ず外しておく。
- (2)強風の場合にはハウスの戸締まりを徹底し、ハウス内への吹き込みを防止するとともに、ビニールの破損箇所の点検補修を行う。
- (3)フルオープンハウス等でビニールを天パイプ部分に巻き上げ収納してある場合は、強風でビニールが広がらないよう結束を確認する。
- (4)ハウスは筋交い、中柱等で補強する。その際、ハウスが降雪後にねじれないように補強は左右対称とする。
- (5)ハウスの隣棟間隔が狭いとき（間口の1/2以下）は、1棟おきにビニールフィルムをはずし、雪の堆積場とする。
- (6)ハウスサイドに堆積した雪を融雪するため、できるだけ高い位置に散水パイプを設置する。散水施設を設置できない場合は、かん水チューブを堆積した雪の上にセットできるように準備する。
- (7)ハウス上の積雪が滑落しない場合は、手作業で強制的に滑落させ、天井に雪を乗せたままにしない（ハウス内を4℃以上にすると滑落する事が

多い)。また、ハウスの側壁に積もった雪は早期に除雪又は融雪する。

(8) 急激な降雪により積雪が1メートルを超えるような緊急時には、左右対称にビニールを切ってハウスの倒壊を防止する。

(園芸施設共済に加入している場合は、切断前に農業共済組合に確認する。)

〔麦類〕

(1) 排水溝の点検

融雪後、圃場巡回を実施し、地表面の排水が速やかに行われているか排水溝の点検を行い、必要があれば排水溝の手直しや追加を行う。

〔野菜・花き〕

【事前対策】

(1) 施設野菜・花き

- ① 積雪により、ほ場内に入れられない事も考慮し、収穫期を迎えている品目（こまつな、フリージア等）については、降雪前に速やかに収穫する。
- ② 二重トンネルや被覆資材を利用して熱の損失を防ぐ。育苗中の品目は（トマト、きゅうりなど）は各生育ステージでの適温管理に努める。
- ③ フリージアは3℃以下にならない様、暖房機を設置し、凍霜害を防止する。使用時は、不完全燃焼しないよう注意する。
- ④ 過湿による病害の発生を防ぐため、循環扇を稼働させるほか、積極的に換気し、湿度の低下に努める。

野菜の低温障害一覧

品目	障害の種類	発現部位	発生条件	対策として考えられる事項
トマト	窓あき果 条斑果 チャック果	果実	低温、多窒素、多水分、Caの吸収阻害	適温管理 少窒素 適正水分管理 品種選定 開花時のCa散布(0.14%)
キュウリ	心止まり カンザシ	生長部	低温、短日、過剰施肥	適温管理 長日、適正養水分管理
スイカ	心止まり	生長部	低温、過剰施肥	適温管理
イチゴ	奇形果	果実	受精不能	訪花昆虫の活動温度確保

【事後対策】

(1) 施設野菜・花きでは、積雪によりハウス内が長期間密閉されないよう早めにハウスサイドの除雪を行い、換気できるようにする。ハウスサイドの融雪に時間を要する場合、出入口を除雪し、換気などに努める。

(2) ハウス内や育苗温床のトンネル内の温湿度が急激に上昇しないようハウスサイドを開放する。なお、育苗温床のトンネルは、ハウスや施設内が15℃以上になってから換気を開始する。

- (3) 草勢の低下や生育の遅延が見られる場合、液肥の葉面散布を行うほか生育に応じて速効性肥料による追肥を行う。また、凍霜害などで傷んだ部位から灰色かび病などが発生しやすくなるため、必要に応じて、薬剤の散布を行う。
- (4) 生育の回復が望めない場合は、再度、は種や定植を実施する。また、は種適期を逸する場合は他の作物への転換を図る。

[果樹]

- (1) 樹体や果樹棚を支柱等で補強する。特に、粗剪定が終了していない園や主枝や亜主枝が長大化している園では、雪の重みによる枝裂けや棚の倒壊が起きやすいので対策を徹底する。
- (2) 冠雪が50cmを越えると枝折れや枝裂け等の被害が出やすいので、降雪量を見ながら着雪の払い落としを行う。
- (3) ドカ雪の場合は、果樹棚等の施設への積雪状況に注意し、必要に応じて早急に雪下ろしを実施する。

[畜産・飼料作物]

- (1) 畜舎等の施設点検を行い、老朽化等により倒壊の恐れがある場合は必要に応じて補強等を行うとともに、屋根の雪下ろしを行う。畜舎の周囲では、飼料運搬車等の車両通行を確保するための除雪に努める。
- (2) 停電等緊急時に備え、自家発電機の準備、点検を行う。また、交通の遮断等非常事態に備えて、飼料の在庫確認と購入手当を早めに行い、粗飼料なども含めて給与する飼料が不足、急変しないよう留意する。
- (3) ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールは、網をかけるなど強風による破損を防止する。

なお、雪害に対する被害防止対策については、雪害対策マニュアル（平成30年11月発行(令和2年2月改定)、<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/noken/kisyousaigai/documents/020201.pdf>)を参考にして下さい。

高波と強風及び大雪に関する石川県気象情報 第4号

令和3年2月15日05時58分 金沢地方気象台発表

(見出し)

石川県では、16日からうねりを伴った高波に警戒し、15日から海上を中心に強風に注意・警戒してください。また、17日から18日頃にかけて日本の上空には強い寒気が流れ込み、大雪となるおそれがあります。

(本文)

[要因]

15日から16日にかけて、低気圧が急速に発達しながら日本の東を北上してオホーツク海へ進む見込みです。その後、日本の上空には強い寒気が流れ込み、18日頃にかけて強い冬型の気圧配置となるでしょう。

このため、石川県では、15日から18日頃にかけて荒れた天気となるでしょう。

[風の予想]

石川県では、15日から海上を中心に非常に強い風が吹き、16日頃には雪を伴うでしょう。

15日に予想される最大風速(最大瞬間風速)は、

加賀 陸上 17メートル(30メートル)

海上 20メートル(30メートル)

能登 陸上 17メートル(30メートル)

海上 23メートル(35メートル)

16日に予想される最大風速(最大瞬間風速)は、

加賀 陸上 15メートル(30メートル)

海上 20メートル(30メートル)

能登 陸上 17メートル(30メートル)

海上 23メートル(35メートル)

の見込みです。

その後も18日頃にかけて、非常に強く吹く所がある見込みです。また、予想に比べて低気圧が発達した場合、海上では警報級の暴風となる可能性があります。

[波の予想]

石川県の海は、16日からしけとなり、18日頃にかけて大しけとなる所があるでしょう。

16日に予想される波の高さは、うねりを伴い、

加賀 5メートル

能登 5メートル

その後、17日に予想される波の高さは、うねりを伴い、

6から8メートル

の見込みです。

[雪の予想]

16日から18日頃にかけて強い冬型の気圧配置となり、大雪となるでしょう。

16日6時から17日6時までに予想される24時間降雪量は、多い所で、

平地 10から20センチ

山地 30から50センチ

その後、17日6時から18日6時までに予想される24時間降雪量は、多い所で、

平地 20から40センチ

山地 50から70センチ

の見込みです。

18日頃にかけて、更に降雪量が増え、寒気の程度によっては警報級の大雪となるおそれがあります。

[防災事項]

石川県では、16日から18日頃にかけて、うねりを伴った高波に警戒し、15日から海上を中心に強風や風雪に、17日から18日頃にかけて大雪による交通障害に注意・警戒してください。また、電線や樹木への着雪、なだれに注意してください。

16日にかけて落雷や竜巻などの激しい突風のおそれがあります。屋外活動等に十分注意してください。発達した積乱雲の近づく兆しがある場合は、建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。ひょうの降るおそれもありますので、農業施設の管理にも注意してください。

[特記事項]

今後発表する警報、注意報、竜巻注意情報、気象情報等に留意してください。

[情報の発表予定]

次の「高波と強風及び大雪に関する石川県気象情報」は、15日17時頃に発表する予定です。